

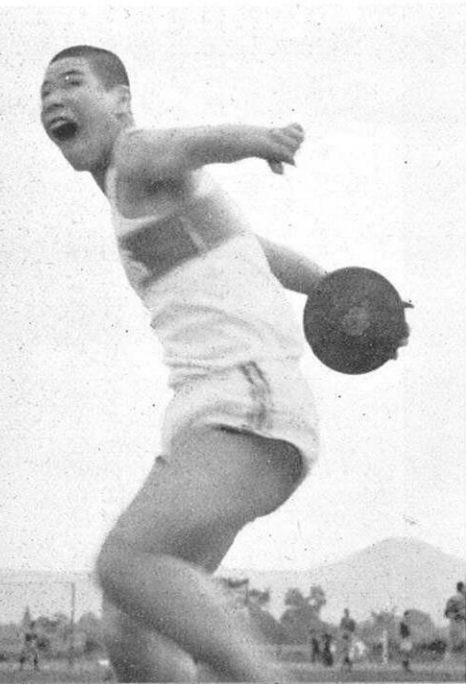
スポーツ優秀校めぐり
 ②
 県立熊手工業高等学校

国体めざして...



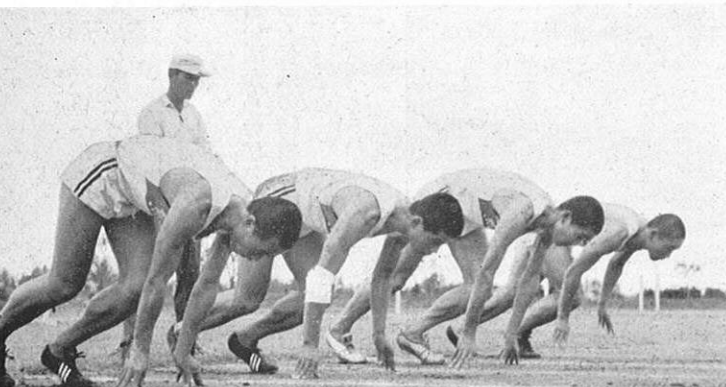
↑連日の猛暑にもめげずはげしい練習のラグビーチーム
 (1959・県下高校大会春夏連続優勝)

★  ★
 みなさんの協力を
 熊工運動部は、数年来、県大会
 や全国大会でかなりの成績をあげ、
 特に陸競部では一昨年の全国征覇に
 ついで今年もすでに県予
 選に優勝しました。国体
 優勝の戦歴をもつラグビー
 1、全国第三位のパレー
 ほか各部でも国体めざし
 て目下心技の練磨に励ん
 でいます。
 みなさんのご声援を心からお願
 いたします。
 熊本工業高校長 小島嘉七郎



←円盤投げの田中一郎君・
 記録43M07
 (南九州大会優勝1959.6)

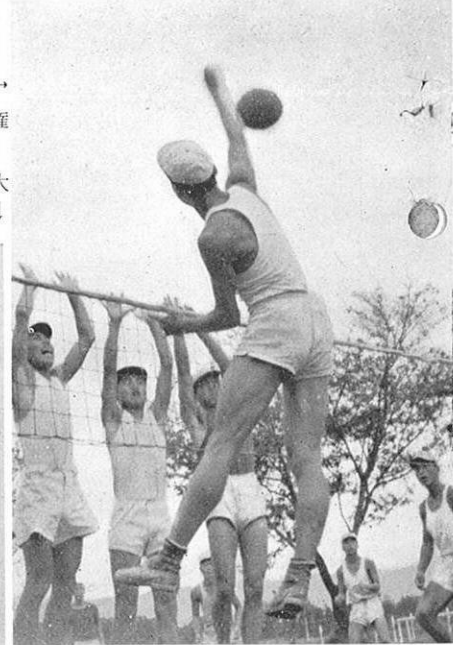
↓800Mリレー・記録 1分33秒5 (県大会優勝1959.6)




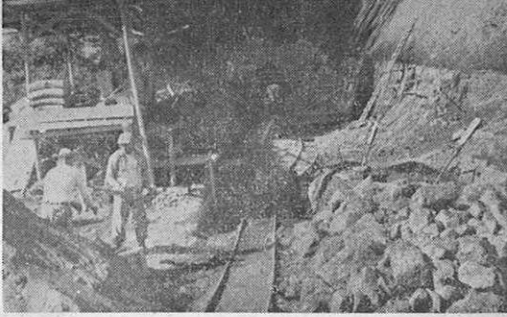
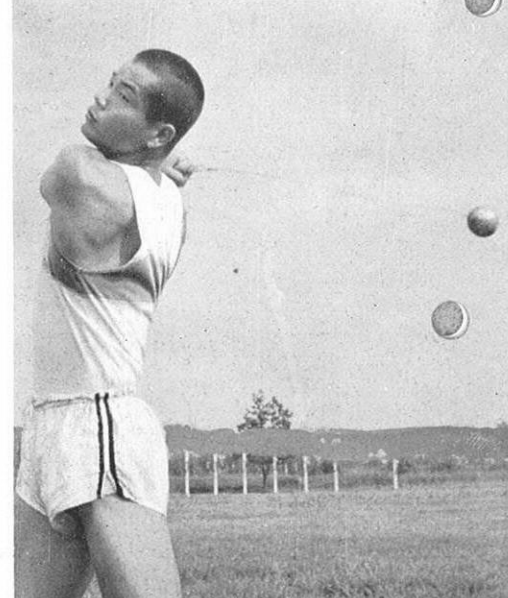
めざましい飛躍を見せるバレー部

(1956.6全日本高校バレーボール男子選手権
 大会県下優勝)

砲丸投げの陶山真天君(記録14M94南九州大
 会優勝1959.6)



★  ★
 ハンマー投げの坂田道雄君
 (記録56M14南九州大会優勝1959.6)



(写真は球磨南部利水工事)

これからの土地改良をどう進めるか
 いわゆる土地改良部がめざすもの

まず排水路の対策を

昨年もそうでしたが今年もこの六・七月には早ばつに見舞われました。そしてそれに伴う水紛争が各所で起り農村では絶えず暗い影が漂うといった状況です。ところが、これが一旦、豪雨に見舞われると忽ち水害となり、耕地も水路も流失してしまふという具合にいわば農業基盤の弱さを如実に見せつけられています。

全国的にみても、熊本県は暖地で雨が多いため、稲作には最適の条件を備えている筈なのに、米の平均反収は二石三斗余で、全国平均にどうやら肩をならべている状況です。

耕地の生産力を充分に發揮して、農家所得を引上げ(県平均農家所得は一戸当り現在約二七万円)文化的な豊かな農村を建設することは、いままでもなく県政の大きな課題ですが、この目的を果す第一の問題点は、まず災害から耕地を守ることもありません。

急務な畑地かんがいの拡充

つまり県の米の中心地帯である海岸平野部では、その出発において只農地を拡大することだけに重点がおかれ、排水についてはほとんど関心が払われていないのが実状です。

たとへば、水害による農作物の被害が最も激しかった地帯は、この地域に集中しており、また県が現在、玉名、熊本、八代の各平野を総合開発事業として、大きくその計画をおし進めてきたのも、いわば災害から一日も早く脱却しようといふねらいに他ならないのです。

いまとりあげた地域は、昔から用水と排水の機能を同じ水路で兼用したものが多く、したがって水路は到るところで閉ざされ、しかも勾配がゆるやかなために水の流れは阻害され、文字通り動脈硬化の症状を呈している状況です。こゝで当然考えられることは、つまり用排水路の分離や排水樋門、排水ポンプ、防災ダム

次に生産増強のための第二の問題点は畑地かんがい、事業の拡充強化です。熊本県の最もいちじるしい特徴として水田七三〇〇〇ヘクタールに対して畑は六二〇〇〇ヘクタールということですが、しかもこの畑地帯が全くかんがい、施設をもたず、今なお雨水のみを頼りとしたいわゆる低位生産地帯なのです。そのためこれが県の農業所得を低下させている主な原因ともなっているのです。したがって事業の重点が畑地帯の改良におかれることも当然のことなのです。

菊池、鹿本、両郡下の二万ヘクタール木山託麻台地の五千ヘクタールをはじめとして阿蘇谷、南郷谷、人吉盆地等において、それぞれ千ヘクタール以上の畑地

未開地の開墾と干拓

そこで第三の問題点は、耕地の拡張ですが、食糧と人口の問題解決策として未利用地の開墾と干拓事業が必要なることは今更いまでもないことです。まだ開墾できる面積が二万ヘクタール以上も残されており、主畜、主穀いずれの経営形態

(15ページへ)

が今なおマンモスの存在として放置されており、しかもこれ等の畑地の大部分が火山灰土壌より構成され、比較的豊かな深層地下水に恵まれていることも、調査の結果段々わかりつゝあります。そしてその取水施設も容易でしかも安い事業費で、生産効果もいちじるしいということが今後の畑地かんがい事業を加速度的に發展させるひとつの大きな契機をはらんでいるといえましよう。

もちろん、既成の水田に対しても、一旦早ばつにあえば水不足になるものが三二〇〇〇ヘクタールに及び、溜池、水路の増設、改修が叫ばれるのももとより無視するわけにはいきません。昨年や本年の早ばつに際してどのように農村で水を求めて周章困憊したかは皆さんの記憶に新しいところです。